

## 第64回 日本PTA全国研究大会徳島うずしお大会報告

富士市PTA連絡協議会

副会長 深澤 大介

8月19～21日、初の徳島に行きました。名古屋から「のぞみ」、岡山から瀬戸大橋、高松から高德線という単線で鳴門へ初物づくしの7時間の列車の旅でした。

第1日(20日)分科会

基調講演 女優 水野真紀 氏 「コミュニケーション再考」

2001年から関西地区で放映中の「水野真紀の魔法のレストラン」から学んだこと。

① 視聴者の要望②プロデューサーの要望③スポンサー(大阪ガス)の要望、

この3つの要望全てに答えなければならない。番組は視聴率という数字を毎回突きつけられる。そのためにプロデューサーはスタッフにいろいろ要求する。彼女(ぷろでゅーさー)は自分より若い、すごく勉強している。彼女が何を求めているのか、毎回徹底的に話し合い、掴んでいくよう心がけている。スポンサーも毎回「今日はこの調理器具をさりげなくPRして欲しい」と要求してくる。「さりげなく」がポイントで露骨に宣伝することは嫌う。スポンサーの意図を理解し、番組の中でどうさりげなくPRするか、演技の見せ所です。一方、音声さんや映像編集のスタッフは黙々とPCの前で編集作業をし、良い映像、良い番組を作る職人集団。彼らはコミュニケーション能力よりも技術者としての力量を要求される。全ての人が自分と同じようにコミュニケーションを必要としているわけではないということもわかっていないと、自分の発言で制作現場の雰囲気が悪くなってしまふ。以上のような要旨の講演でした。流石に10代の朝のテレビ小説デビューから30年、第一線で活躍している女優さんです。周囲への気遣いがすごいです。

第2日(21日)全体会は1980年代に「地球(テラ)へ」という作品が少女コミックで連載され、人気を博した漫画家竹宮恵子氏の講演でした。残念ながら私は竹宮先生の作品は知りませんでした。

開会式の徳島市長の挨拶で、「是非ひょうたん島クルーズをしてからお帰りください」とのこと、帰りにモーターボートに乗りました。水運で栄えた徳島市内の運河を巡る20分のクルーズ。35℃の暑い市街でしたが、船で川を進む風は気持ちよく、晴天で川から見る街並みや山は美しく、好印象で徳島を後にすることができました。